

ペルーアンデス中北部における植民地社会の形成：16世紀カエホン・デ・ワイラスのスペイン人と先住民

真鍋周三（兵庫県立大学）

キーワード： カエホン・デ・ワイラス、エンコミエンダ、貢納、巡察、査定

La formación de la sociedad colonial en el norte-centro de los Andes peruanos: Españoles e indígenas en Callejón de Huaylas del siglo XVI

Shuzo MANABE (University of Hyogo)

Keywords: Callejón de Huaylas, encomienda, tributo, visita, tasa

1. はじめに

新大陸の植民地化は、先住民からの租税徴収によってスペイン王権に巨富をもたらす。その最たるものが貢納であった。貢納対象者は18歳から50歳までの先住民成年男子であり、16世紀初期、貢納徴収は一般的にはエンコメンデーロに委託された。貢納徴収に先だって「巡察」「査定」が行われ、対象者の人口が把握された。

現アンカシュ県の山岳地方、サンタ川流域一帯は地理的には「カエホン・デ・ワイラス」と呼ばれる。自然資源に富み、歴史的には「ワイラス地方」として知られた。報告では、このワイラス地域を中心にとり上げ、標記のテーマを考察した。

2. スペイン人征服者とカエホン・デ・ワイラス

カエホン・デ・ワイラスは、東側に6,000m級の氷雪の高峰が連なるコルディエラ・ブランカ、西側にコルディエラ・ネグラがあり、両山脈に挟まれた南北に延びる3,000メートル前後のサンタ川流域地帯が中心であった。

スペイン人征服者が到着した頃、ワイラス地域は2つのエリアからなっていた。南部の「ルリングアイラス」と北部の「アナングアイラス」である。ルリングアイラスに6,000人、アナングアイラスに6,000人の先住民成年男子人口が存在していた。

ワイラスには2人のエリート先住民女性がいた。アニヤス・コルケとコンタルワチョである。両者の共通点は、共にインカ王ワイナ・カパック

の側室となったことである。コンタルワチョを母として誕生したのがイネス・ワイラス・ユパンキ（1518-59）であった。

数年後、数奇な運命が訪れる。1532年11月アタワルパ王が捕囚となった際、イネス・ワイラスはカハマルカに出向き異母兄弟のアタワルパ王に面会した。そこで、フランシスコ・ピサロ（「F.ピサロ」と略称）とも会見する。翌1533年、F.ピサロは彼女を見初め二人は結ばれる。1533年のクスコ征服に同行。翌1534年長女フランシスカ・ピサロ（1534-98）が誕生した。

「身代金」集めの一環で、1533年1月11日、F.ピサロの指示により財宝探索隊がカハマルカから、インカの聖所パチャカマック（今日のリマ南方に位置）に派遣される。パチャカマック神殿に置かれていた財宝を奪い、それをカハマルカに持ち帰るのが目的であった。往路で一行はカエホン・デ・ワイラスを通過した。

復路は東に向かい、中央アンデスを横断してハウハ谷に到着。そこから山岳部を通過して、同年5月カハマルカに戻る。

1533年8月11日、F.ピサロ率いる征服軍は、クスコに向けて出発。財宝探索隊が踏破したカエホン・デ・ワイラスを進むルートを通る。征服軍はハウハに基地を築き、クスコに向けて出発。11月15日、クスコに侵攻。その後コリカンチャの財宝・貴金属類を略奪した。

1534年4月F.ピサロはハウハに戻る。そこでエンコミエンダの分配を決め実行する。

ルリングアイラスにおけるエンコミエンダは、配下の2人の騎士セバスティアン・デ・トーレ

スとヘロニモ・デ・アリアガに分配された。アナンガイラスは、F. ピサロ自身が受領。1535年1月F.ピサロはリマ市の建設に着手する。

3. 混乱の時代から植民地支配（王権による支配）へ

ワイラスの豊かさを示す好例。1536～37年、マンコ・インカの反乱軍がリマ市を包囲したとき、コンタルワチョの対応は驚くべきもので、4,000人の先住民兵を率いてワイラスからリマへ加勢に参じた。また大量の糧食をリマに運び兵站を担った。彼女のおかげでリマは守られた。

2人の騎士に分配されたエンコミエンダについて、セバステアンのデ・トーレスが得た場所は「ワラス」、ヘロニモ・デ・アリアガが得た場所は「レクアイ」であった。1539年、エンコミエンダ内で起きた先住民反乱でセバステアンのデ・トーレスは死亡する。息子のエルナンドは小児ゆえ、妻のフランシスカ・ヒメネス（エルナンドの母親）がエンコミエンダを継承。彼女は1548年に再婚（3度目の結婚）する。相手はセビーリャ出身のスペイン人ルイ・バルバ。翌1549年、今度はフランシスカ・ヒメネスが死亡。夫のルイ・バルバが妻のエンコミエンダの相続を要求して紛争になった。裁判の結果、1549年にルイ・バルバは300人の貢納対象者を擁するエンコメンデーロになった。エルナンドの義理の兄弟クリストーバルもまた、故セバステアンのエンコミエンダの一部を継承。かくしてエルナンド・デ・トーレスの権利が侵害された。

1558年3月時点でエルナンドには後見人がついていた。ワヌコのコレヒドールのディエゴ・デ・アルバレスである。この時、エルナンドは未成年でワヌコ市の住民であった。

1562年エルナンドはワラスとマルカのエンコミエンダを回復するために訴訟を継続中であった。その後、第5代副王トレド（在位1569-81）は、ワラスとマルカのエンコミエンダの所有をエルナンド・デ・トーレスに認める。

ワラスの巡察は1558年1月、ワヌコのコレヒドールにより行われた。

1549年ペルー全般における貢納徴収体制に向

けての「査定」が、ペドロ・デ・ラ・ガスカにより始められる。ワイラスでは貢納納入用の農畜産品の大半を地元で調達できていた。

ワイラスにおける植民地支配の始まり。1571年副王トレドはスペイン人巡察使サントーヨにレドゥクシオンを命じる。1576年3月30日、副王トレドは、エンコミエンダを再調整した。ワイラス地方のエンコメンデーロの人数は、フランシスカ・ピサロを含めて「4人」となった。

ワイラス全体の統治者としてコレヒドールが配置されることになり、1576年5月30日ワイラスのコレヒミエントが誕生した。エンコミエンダとコレヒミエントの複合形式となる。

4. おわりに

カエホン・デ・ワイラスは類を見ないほど豊かな地帯であった。それゆえに、インカ王ワイナ・カパックやスペイン人征服者ピサロ、ひいてはスペイン王権が魅了されたのも無理からぬことであった。この地方ではエンコミエンダが核となって、植民地支配への扉が開いた。ワラス市が建設され、コレヒミエントが誕生した。

【主要参考文献】

- Alba Herrera, C. Augusto, 1996, *Huarás: Historia de un pueblo en transformación*. Ediciones “El Inca”, Caras-Ancash.
- Matos Colchado, Santiago, 2000, *Huaylas y Conchucos en la historia regional*. Editorial San Marcos, Lima.
- Varón Gabai, Rafael, 1980, *Curacas y encomenderos: Acomodamiento nativo en Huarás, siglos XVI-XVII*. P.L. Villanueva, Lima.
- Varón Gabai, Rafael, 1993, *Estrategias políticas y relaciones conyugales: El comportamiento de incas y españoles en Huaylas en la primera mitad del siglo XVI*. *Bulletin de l'Institut Français d'Études Andines*, Tome 22, No.3, pp.721-737.